閲読文に関する情報の差が内容討議と理解に与える効果（II）
—討議集団内の半数のみに閲読文の内容に関する情報を与えた際に示された知識利用の差異
Acquisition of appropriate strategies in collaborated text comprehension tasks（II）

光田　基郎
Motoo MITSUDA
聖霊女子短期大学
Holy Spirit Women's Junior College, Akita, Japan
mitsuda@moera.net

Abstract
This article suggested that collaborative web learning environments did not guarantee, as compared to face-to-face interactions, effective interaction in learning .
Keywords collaboration, text reading, analogy,

1. 目的:昨年の発表に引き続き,散文閲読後の内容討議をチャット画面又は対面討議にした際の集団内対人態度の変化と教授活動効果とを指摘する.

2. 方法：(a) ﾌﾟﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ誌’91 より「組織の No2 は現在のﾄｯﾌﾟと一体化して次のﾄｯﾌﾟの気配を否定すべき」と述べた箇所 34 文を書き改め,「源義経は武家の No. 2 の役割を無視して破滅,秀吉の弟はﾏﾈｰｼﾞｬｰ役で政権を支え,尊氏の弟は無私の実務家でも兄の側近と対立・失脚,三本の矢の例の毛利家３兄弟は拡張より内部結束を重視して存続,周恩来はﾄｯﾌﾟの補佐役に徹して粛清を回避のほか,秀吉の参謀で野心家の黒田如水は警戒されて引退」の内容を女子短大生に個別画面での閲読とチャット又は対面での内容討議を求めた．上記の小集団での内容討議の後にその逐語・推理再認検査６項,(b)下位技能（閲読と無関係の類推,比ゆ理解, d , c ,e,b, ? の文字系列の推理,「松, 杉,桧,樅→と横」の過剰類推ほか）の選択反応入力(c)上記の登場人物相互間の類似度評定とその確信度の５段階評定値の各々のマウス入力を求めた.（d）集団内対人態度は, 思考動機,集団への同調と疑問・自分の内面への配慮, 討議意欲, 達成動機, 集団内と個人別にリーダー（フオロワー）シップ, 課題志向性と親和性の評定を求めた（再認の差は日本心理学会発表）.(ロ)参加者・手続：聖霊女短大１年生 37 名が実習用端末画面で個別に参加．上記の文を１文ずつ個人のペースで閲読後, 4-5 名の小集団内で説明役による内容の説明と内容討議とを 15 分間行った後に再認と上記の下位技能検査を行った. 参加者の 1/2 はチャット画面で 4-5 名の集団毎に, 残る半数は 4-5 名の対面集団内で各々内容討議したが,各集団の半数は材料文の閲読に先立って「No.2 は今のﾄｯﾌﾟと一体化・・」の先行オルグを与えた説明役, 半数は無教示の傾聴・補足役である. 以上, 参加者は役割（閲読内容の説明役/ 無教示の傾聴・補足役）と内容討議の形式（ﾁｬｯﾄ/ 対面）別の 4 群のいずれかに割り当てられた.

3. 結果と考察：(a)図１は集団内フオロワーシップ評定値を集団成員の役割と討議形式毎に求めた結果である. 2 要因分散分析して対面討議>チャット(5%), さらに上記の集団成員の評定値と役割別の個々の成員自身のフオロワーシップ評定値との相関を求めて共分散分析して,生徒役>教師役（r=.600vs .326:対面討議条件｝を示す.,親和性も類似の結果を示す他,リーダーシップは教師役の優位を示した.以上, 非言語的手がかり(Chung など'12)効果を示唆し得よう..

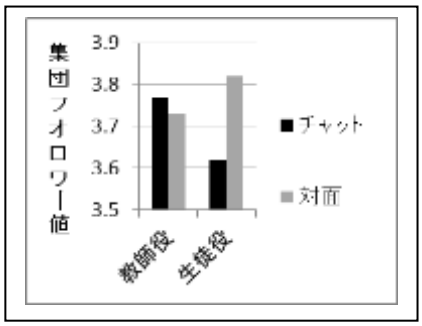

図１．対人態度評定値の一部

文献：Chung,C.,Lee,C., & Liu C., 2012.The benefits of a shared display.*Journal of computor assited learning*.28,1-19.